

審査結果の要旨

報告 番号	甲 第 1343 号	氏名	櫻木 初美
審査担当者	主 査	副主査	副主査
	石 竹 達 也	溝 口 亮 志	山 下 典 雄
			(印) (印) (印)
主論文題目：災害ボランティアの健康管理支援体制に関する研究（第2報） - 災害ボランティアセンターの全国調査より -			

審査結果の要旨（意見）

本論文は、災害ボランティアセンターの健康管理体制の実態およびその支援の在り方を検討するために実施された横断研究である。調査対象は全国の社会福祉協議会で2016年からの5年間で災害ボランティアセンターを設置した332箇所である。総務省が作成した既存の調査票をもとに追加質問も加えた無記名自記式調査を行なった（回答率52.1%）。活動期間の長期化傾向や改善を要すべき安全衛生体制の項目（予防接種の徹底、メンタルヘルス支援体制の確保、保健医療専門職との連携強化など）を明らかにした。また、ボランティア活動の安全支援体制の程度と実際の現場でのけがや疾病の頻度の間に負の相関関係を認めるなど、安全衛生管理体制の強化・充実の重要性を明らかにした。それらを踏まえて、今後の災害ボランティアセンターの組織運営において、事前研修や活動時の安全衛生指導の実施、および保健医療専門職との連携強化のために現場に救護チームや救護所の設置推進が必要であると提言している。

災害大国である我が国において、今後も災害ボランティアの活躍が不可欠であり、そのための支援組織である災害ボランティアセンターの健康管理体制の改善について、具体的な提案がなされたことは大変意義があり、学位論文として十分に価値があると考えます。

論文要旨

本研究は、災害ボランティアセンターにおける安全衛生体制の実態から災害ボランティアの健康管理体制の課題を明らかにすることを目的とした。調査対象は社会福祉協議会が2016年度からの5年間に設置したセンター332か所とし、無記名自記式質問紙調査を行い、質問項目はセンターの設置体制、災害ボランティアの活動状況及び安全衛生体制の整備状況とした。その結果、活動期間は長期化傾向にあり、災害ボランティアの一部は危険な環境下で活動していることが明らかになった。また、改善を要する安全衛生体制の項目として、予防接種の徹底、メンタルヘルス支援体制の確保、受援体の強化、保健医療専門職の助言の確保、連携の場の設定が挙げられた。災害ボランティアの健康管理支援体制の課題として、事前研修や活動時の安全衛生指導を行うことや安全衛生管理体制の充実強化の必要性が示唆された。また、活動前の破傷風ワクチン接種等の予防接種を徹底することやメンタルヘルス支援体制確保のために精神科医や心理職等の協力体制の整備を図ること、及び保健医療専門職の助言を確保するために保健医療専門職等を配置した救護チームや救護所の設置を推進する必要性が示唆された。